

## 中播磨新地域ビジョン検討委員会第2回観光交流部会 議事概要

(検討テーマ：ツーリズム振興、地域資源の活用)

### ■ゲストスピーカーからの話題提供

#### ○「ツーリズム振興」を交通から考える～2次交通問題？

《説明要旨》

##### (1) 交通が観光の目的になることも

- ・高速で移動するよりも、時間はかかるがゆっくり景色を楽しみ、自然を感じながら移動することが望まれる場合もある。

##### (2) 地域が守ることを交通も守る

- ・地域が大事にするもの（自然環境等）を交通も大事にすることがとても重要

##### (3) 観光需要が地域交通を支える

- ・少子高齢化が進む集落において、観光客の利用により交通サービスを維持
- ・観光資源が、観光だけでなく、地域の人々の生活も守る。

##### (4) 観光交通は地域の生活を阻害しない

- ・伝統的建造物群保存地区の町並みに自動車は不適切であるため、超小型モビリティを導入（軒下に駐車でき、違法駐車等により地元の人の生活を妨げない）

##### (5) 日常を離れ、そこでしか経験できないこと

- ・ゴージャスでリッチな環境は別に旅行先に行かなくてもいい。旅行先でしか楽しめないものを楽しむのが観光（都市での生活とは別の新たな2つ目の生活を楽しみに旅行に来る）
- ・そこでしか経験できないこととして、何を提供するのが大事

##### (6) その他

- ・観光は非日常を楽しむものであるため、30年後の我々が一体どういう価値観で物事を見ているかという視点が必要（技術の発展によって我々にもたらされるいろんな価値観の変化が大事）
- ・車利用なしで移動できることは、とても重要な観光活性化の要素
- ・小型電気自動車は、車がホテルや空港、病院、マンションなどいろんなところに入れるため、都市構造そのものが変わっていく可能性がある。

### [具体例]

#### ○ツェルマット（スイス）

- ・内燃機関の車の進入を禁止し、電気自動車と馬車が2次交通を担っている。

#### ○明日香村（奈良県）

- ・観光客がコミュニティバスを支えている（観光客により利用が急激に増え、赤字幅の縮小・運行本数の増大を実現）
- ・観光客が利用しやすいようパターンダイヤ（どのバス停にも必ず同じ時間に停まる）を導入

#### ○豊田市足助地区（愛知県）

- ・田園風景を維持している一次産業を守るために、超小型モビリティを活用し、運転免許の返納年齢を遅らせる。

○グルノーブル（フランス）

- ・再生可能エネルギーを活用した超小型EVシェアリングを3次交通にする。

○砥峰高原（神河町）

- ・自然が魅力であるにもかかわらず、自動車のエンジン音が聞こえてしまう。
- ・どういう交通を入れていくか、逆に何を規制するかを考えることも必要

○家島（姫路市）

- ・狭い家島の道でも走れる三輪電気自動車を地元内外の人がレンタルして利用
- ・地域の特性にあった交通を提供することも大事

○書写山圓教寺（姫路市）

- ・容易に自動車で訪れることが出来ないため、自然が維持された。

《質疑等》

〈委員〉

- ・地域の考え方や歴史を含めて、どう地域づくりをするのかということが、それぞれの価値観に繋がると思う。
- ・1つの大きなテーマをもって観光地づくりをしていかないといけない。そのテーマに繋がる公共交通についても同様に考えていくことが重要だと認識した。

〈委員〉

- ・路線バスなどが削減されている状況にあるなか、明日香村のコミュニティバスの事例は関心を持った。観光客の誘致や案内をするなかでも、パターンダイヤについては参考になった。

■意見交換

○中播磨全体で一つのツーリズム

〈委員〉

- ・中播磨を縦の線で考えると、姫路・福崎・市川・神河を結ぶ播但線が1次交通だと思う。そこから、シェアカーやバイク、馬車といったものを2次交通として考えて進めていけばどうかと思う。
- ・中山間地域については、第一次産業を地域資源として有効活用しながら、農業ツーリズムに結びつけることができればと思う。第一次産業を見直し、観光とともに、地元の活性化に繋がるようなことを考えても良い。

〈委員〉

- ・姫路では、通過型観光が課題になっている。それを解決するためには、姫路城プラス1が必要。最近「体験」や「味わう」等の傾向があるため、体験素材の開発をしないとイケない。
- ・期間が長く、日常なかなか味わえない体験ができる農業は一つの大きな要素

〈委員〉

- ・銀の馬車道等の「歴史文化」の体験を観光資源として発信することも重要
- ・市川を生かした体験も、観光ツーリズムとして成り立つのではないかな。
- ・播但線を生かしたサイクルツーリズムという観点でも取組が出来れば良いと思う。
- ・自動車で目的地まで行く人が多いため、播但線の利用が少ないことが課題。地域の公共交通を守るため、少しでも利用が多くなる手法も考えることも必要

### 〈委員〉

- ・播但連絡道が出来たことによるストロー効果で、神崎郡内が通過地点になっている。
- ・バス交通が衰退していくなかで、姫路駅を軸とした扇状の交通網しかない（姫路経由の公共交通しかない）。
- ・人口が減少していくなかで、どうやって1次交通である播但線を維持し、播但連絡道のストロー効果を分断するか、という2つのテーマが大切だと思う。
- ・自力で維持できる地域の交通網を構築し、日常コストの掛からない方法をつくるのが、持続可能な中播磨の姿になるのではないか。
- ・播但連絡道を通る観光客に、どのようにして中播磨に寄ってもらうかということを考える必要がある。
- ・1次交通、2次交通のゾーン化を考えていくことが大事

### 〈ゲストスピーカー〉

- ・特に2次交通は大事で、播但線をどのようにして維持するかが、地域の大きな課題になると思う。
- ・コミュニティバスがあったとしても、知られないと意味が無い（誰も知らないバスは走っていないのと同じ）ため、明石市が提供している「バスロケ」のようなサービスをつくることは大事である。
- ・地域の産物を味わい楽しむことは旅行の目的の一つ。第一次産業の体験は大事
- ・地元産の麦を使ったパンと地元産のお酒のように、そこで楽しめるものを上手く組み合わせることが大事。それだけを楽しむために、わざわざ足を運んでもらうことが、これからの観光のあり方だと思う。
- ・地元産品の選定や組み合わせは、地域に根ざして、地元の人と一緒に組み立てるべき。地元の人が楽しむパン屋でないと、旅行者は絶対に美味しいと思わない。

## ○地域資源を観光資源に

### 〈委員〉

- ・地産地消の活動をしてきて思うことは、安定供給がされていないがゆえに、食材に限られ、地元の加工業者もなかなか手が出せないことが課題
- ・これからの第一次産業は小規模でいいと思うが、どのようにして多種多様にしていくか、そして若い人が生活の糧としてやっていけるかが今後の大きなテーマになってくると思う。

### 〈委員〉

- ・神河町でも、人参や柚子の産地化・加工化に取り組んでいるが、農家の高齢化が進み、人手が不足していることが課題
- ・「食」はこれからのツーリズムを考えるうえで切り離せない。これに加えて、中山間地域で増えている空き家と上手く組み合わせて、観光の目玉にできればと思う。
- ・30年後の想像は難しいが、今、活用できるものを上手く使っていくことが有意義ではないかと思う。

### 〈委員〉

- ・播但連絡道で但馬に行く人を、いかにして中播磨で引き止めることができるかが

大事。空き家や農地、里山を活用した取組を、今後広めていければ良いと思う。

- ・田舎の人は見知らぬ人に話しかけることが苦手なので、観光客に来てもらうためには、地元住民の意識改革が必要

#### 〈委員〉

- ・伝統行事や祭りなど都会にはないが地域に残っているもの（普段はできないが中播磨に行けばできる）を体験することは観光資源になるのではないかな。
- ・ありのままの状態でファンを作れることが望ましい。30年先までの持続性を考えるとき、あまりお金や労力を掛けずに出来るようなものが理想

#### 〈ゲストスピーカー〉

- ・今後、農産物工場での野菜生産が進むと、手作りの付加価値は一層上がるはず。
- ・工業生産が進むほど、自然や文化、人との触れあいといった歴史やシナリオ、文化性があるもの（コンテンツ+コンテクスト）をつくる必要がある。
- ・文化や祭りなどは「残す」から「戻す」にエンジンのかけ方を変えないといけない。「戻す」ことは、ある意味「作る」こと。今の時代に合わせて、今までの文化や歴史を少し手を加えながら作っていくことが、戻して残すことに繋がるのではないかな。人口減少下において観光客や新規移住者等の協力を得て、いろんな形で戻して作る。そのような動きをしながら、心に訴える観光資源を作ることが大事

#### 〈委員〉

- ・日常生活そのものを観光資源にしていくことが大事。新しい何かを与える観光は、おそらく30年後にはあまり必要ないと思う。日常の地域での祭りや行事をどうやって観光に繋げていくかが大事
- ・「銀の馬車道」は、もっと都市部で博物館のような規模でアピールしないと、地元で定着することも難しいと思う。
- ・播但線や播但連絡道、銀の馬車道、夢前川沿いなどその他エリアも含めてゾーン分けをしっかりと行い、中播磨において地域資源の役割分担をするべきだと思う。

#### 〈委員〉

- ・ターゲットをきちんと定めて、その人たちに合うものを組み合わせて提供していくことが大事
- ・移動手段によって動線が変わるが、最終的にお金が落ちるような仕組みが必要

#### 〈委員〉

- ・田舎の人はボラティアが好きで、何でもタダで提供する傾向があるが、お金をきちんと落としてもらうことは非常に大事なポイント。そうしないとなかなか継続しにくい。

### ○都市部（姫路中心部）と郡部の絡め方について

#### 〈委員〉

- ・繰り返しになるが、播但線と播但連絡道をどう活用していくかだと思う。

#### 〈委員〉

- ・自然体験コースなどのルートを設定したり、郡部での生産物を姫路でPRしたりすれば、姫路の街中とつながりができるのでないかな。一方で、街中と中山間地域で、それぞれ特化・差別化することも1つの方法だと思う。

### 〈委員〉

- ・郡部の生産者による街中でのマルシェは将来的に伸びる可能性があると思う。回転率の良い野菜など農業の儲かる部分は、都市部（ビルの中での野菜づくり）に持って行かれるので、郡部の農家は自分で売る力を付けないといけない。農業そのものを見直していかないと、第一次産業の観光にも繋がっていかない。

## ○家島について

### 〈委員〉

- ・家島の漁業と競りを体験素材として活用できないか考えている。

### 〈委員〉

- ・家島では、コロナ禍で高級クルーザーによる訪問が増えており、今後、高級リゾート地として化ける可能性がある。

### 〈委員〉

- ・家島は神河町と比べると温暖な地域なので、海があるロケーションの中で、キャンプやグランピングなど、リゾート地として発展していく可能性があると思う。

## ○その他

### 〈委員〉

- ・自動運転はこれからどうなるのか、見通しを教えてください。

### 〈ゲストスピーカー〉

- ・今後5年で一般道路が自動運転の車でいっぱいになることはあり得ない。
- ・高速道路は自動運転で走れるようになると思う。またアクセス制御された専用道は、運転支援の機能でかなり走れるようになると思う。
- ・自動運転や運転支援機能が普及すれば、長距離の運転も負担がかなり減少する。
- ・10～15年では、自動運転よりも電気自動車（EV）が早く来ると思う。EVはガソリンスタンドが維持できるかわからない地域や、ガソリンスタンドが少ない地域でも使用することができる。（ランニングコストも少なくなる）
- ・超小型EVは、高齢者の免許返納を留めることに効果があり、これは第一次産業を維持するために重要なことである。
- ・一般的な車両は、自動運転を搭載するにはコストが高いため、自動運転が導入されるのはまず業務用車両である。
- ・コミュニティバスは事業経営よりも運転手不足が課題。運転支援機能が良くなれば、二種免許のない人でもコミュニティバスを運転できる可能性があるため、定年後に地域と一緒に生きるために、コミュニティバスの運転手をする人が出てきてくれる可能性がある。
- ・中山間地域においては、バスの乗り降りをする際に手伝う人がこれから必要になるため、公共交通が完全に無人になるのはまだまだ先のこと。
- ・短い距離だと自動運転もあり得るかもしれないが、運転支援機能を使い、地域の交通をどのように維持していくかを議論することが大事ではないかと思う。
- ・観光については、長距離を車で訪れる人が増えそうなので、そういう人たちが車を停めて、楽しめるものを作っていくといけない。（以上）